

1. 活動テーマ

<テーマ>

【年間テーマ】水 【今回の問い】水に浮かぶもの・浮かばないもの	園名	てくてく保育園		
	クラス	にじ組(2歳児)	人数	3名

<テーマ設定理由>

テーマの設定に生かした園の環境や強みについては専用の戸外の場所や広々とした園内に置いて水遊びができる期間が長く環境として恵まれた環境のある園であること。例年、水に触れて遊ぶ中で子どもたちが集中し取り組む姿が多く見られていたため、水遊びの活動が始まるにあたり、子どもたちに「水」について興味関心が広がるきっかけになると考えた。少人数制であることから、大きなテーマを設定することで、一人ひとりの興味関心に合わせて探究の幅をひろげていく。

2. 活動スケジュール

年間活動期間：2025年6月～2026年2月

記録活動期間：2025年6月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備したもの】

絵本『ぞうくんのあめふりさんぼ』『うかぶかな？しずむかな？』
水槽、水槽半分くらいの水、野菜(すいか、にんじん、さつまいも、ピーマン)、カラーボール、ビー玉、スーパーボール、大小のお皿玩具、車の玩具、洗面器、色水の入ったペットボトル

【環境設定】

机の上に水槽を置き、子どもたちに見えやすいようにする。クラスではなく、広いホールで行う。
絵本の内容と同じペースで実験を進めていくが、答えとなるページは捲らずに予想を立てる間を持つ。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①朝の会で導入として絵本『ぞうくんのあめふりさんぼ』を読み聞かせする。
→絵本のぞうくんが水(池)で浮いていることに注目し、これから行う実験に興味を持ってもらう。
- ② 絵本『うかぶかな？しずむかな？』の内容と同じ流れに沿って実験を行う。
*答えとなるページはすぐに捲らずに子どもたちの予想を聞きながら実験していく。
…1. カラーボールと車の玩具 …2. 野菜を入れてみる …3. 色水ペットボトル 量を減らしていく(満タン→半分→空っぽ) …4. 大きなお皿玩具と小さなお皿玩具 …5. ビー玉とスーパーボール
…6. 1～5の全部を入れてみる …7. ペーパータオルは浮くのかな？(子どもからの疑問により実験)
- ③まとめ、ふりかえてみよう！

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【絵本『うかぶかな？しずむかな？』の内容と同じ流れに沿って実験を行う】

導入は朝の会で取り入れていたので、どんな実験をするのかは理解していたようだった。

実験中は、保育士が次々に出す玩具や野菜に夢中になっていた。

「どうなるかな？」と予想を聞かれると
「わかんない…！」「浮く！」「沈む！」と
答える時もあれば、
「じゃあ水に入れてみよう！」と
結果が気になり先走る声があった。

野菜を実際に自分たちで入れてみると「わあ～」と驚きながらも、浮いている野菜と沈んだ野菜の違いがわかっていた。

【まとめ、ふりかえてみよう！】

全ての実験が終わり、手を拭いている時に「紙(ペーパータオル)は浮くのかな？」と言う声があった。「たしかに…紙は浮くのかな？」と保育士も疑問に思い、ペーパータオルは浮くか沈むかを最後実験した。
結果は浮き、子どもたちと一緒に「浮くんだね！」と発見ができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

普段から目にしている玩具や野菜を用いた実験だったので、子どもたちも興味をよく示して実験に参加していた。玩具やペットボトルは保育士が行い進めていったが、野菜は子どもたちに実際に取り組んでもらうことでより楽しく参加できていた。2歳児(乳児)ということもあり、体積や質量など難しいことはお話しせずに「浮くものと沈むものがある」ということを知ってもらえるよう、一人ひとりに予想を聞いて考えてもらう時間を取り入れた。予想をすることで、結果との違いにも気づき、発見が生まれていた。実験の最後には子どもから「これは浮くのかな？」と疑問の声があり、この実験を通してできた疑問(ハテナ)をみんなで実験してみるという発展が芽生えていた。

1. 活動テーマ

<テーマ>

今回の問い：表面張力の実験	園名	てくてく保育園		
	クラス	にじ組(2歳児)	人数	3名

<テーマ設定理由>

【問いの設定理由】
第一回目と同じように「水」に関わる実験にした。
言葉自体は難しいが「なんでだろう?」と感じる瞬間が多く、興味深いものだった。
また、実験内容や必要なものもシンプルで乳児でも取り組めるものであった。

2. 活動スケジュール

年間活動期間：2025年6月～2026年2月
活動記録期間：2025年7月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

水、透明なグラスコップ、ビー玉、1円玉、クリップ、
スポイト、ザル、赤シート、ペットボトル、活性剤洗剤、
コップ置き、洗面器、タオル（ペーパータオル）

【環境設定】
ホールにて行い、机と椅子を用意する。
グラスコップの実験の際は、水が張っている幕に気付いてもらいたいので

4. 探究活動の実践

<活動内容>

導入として前回活用した絵本「うかぶかな?しずむかな?」を読む。
☆グラスコップに水を満杯に入れる。（水の表面を観察）
①クリップを入れる
②ビー玉を入れてみる
③1円玉を入れてみる→洗剤を水に入れたら1円玉はどうなる?
☆動く船。
④小さく切った赤シートに洗剤を付け、水に浮かばせてみる
☆水がこぼれない!?
⑤ザルに重ねて水が入ったペットボトルを逆さまにすると水はどうなる?

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

保育者がグラスコップ満杯に水を注いでいる様子を見て
「こぼれちゃうよ～」と言っていた。

お水の膜をしてみるよう促されると
「ほんとだ～」
「こぼれないね!」など思い思いの言葉を口にしていた。

実際にクリップを入れる実験をした。保育者同じように
そーっとクリップを入れて水がなかなかこぼれない状況を楽しんでいるようだった。
特に1円玉やクリアファイルの実験では、水面を浮く様子を見て
「すごーい!」「浮いた!」と驚いていた。

界面活性剤を入れると沈んでしまう現象を
「お水の力が負けちゃったから」とわかりやすく伝えると、
そうなんだ～と子どもたちなりに納得している姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

「表面張力」という言葉自体は難しいものだったが、実験に必要な物は子どもたちも知っているものがほとんどだったので行いやすい内容だった。1円玉やクリアファイル、ふるい(ザル)の実験は事前に試しておくことは必要不可欠だと強く感じた。今回のテーマは保育者がメインで進めていく内容だった。ただ子どもたちには、クリップの実験を実際に行ってもらうことで、見るだけでなく参加することもできたので良かった。また、前回の実験で知った「浮かぶ」「沈む」の言葉の違いをよく理解できており、1円玉が底にいくと「沈んだー!」、水面に浮くと「浮いてる!」と言っていて第一回目の実験から発展していると感じた。大人でも「そうなんだ」「不思議だな」と関心できる実験だったので子どもたちと楽しみながら実験が行えた。

1. 活動テーマ

<テーマ>

今回の問い： カラーセロハンで色水を作ろう！	園名	てくてく保育園		
	クラス	にじ組(2歳児)	人数	3名

<テーマ設定理由>

- ・日頃の活動で色水遊びを取り入れていることもあり、子どもたちにとって親しみのある内容であった。
- ・自分たちで色水を作ることを楽しんでもらいたい。

2. 活動スケジュール

年間活動期間：2025年6月～2026年2月
活動記録期間：2025年7月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(準備したもの)
水、水の入ったペットボトル（R-1ボトル3本、ミニボトル3本）・事前で作ってある色水が入ったペットボトル・絵本『いろいろのえほん』・氷作る容器・カラーセロファン紙（赤青黄色緑色）ペーパータオル
(環境設定)
クラスにて机と椅子を置いて行う。戸外活動時は1人1つずつたらいを用意する。

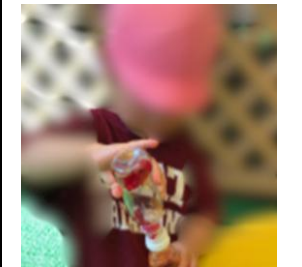
4. 探究活動の実践

<活動内容>

【1回目】
①カラーセロハンに触れ、感触を楽しむ。②実験材料を紹介しながら実験見本をみせる。③R-1ペットボトルに色水を作る（赤色）…時間を置き、放置している間は絵本『いろいろのえほん』を見る。
→③で作った色水を確認！④ミニボトルに色水を作る（赤色ともう2色）
…時間を置いた後、冷凍庫へ入れる。⑤③で作った色水を持って戸外で色水遊び。
【2回目】※翌週
⑥先週取り組んだドキュメンテーションを振り返る。
⑦④で凍った色水で色水遊び。

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

【室内活動中】
カラーセロハン紙に触れながら、「柔らかい」「くしゃくしゃできる」「軽い」など思い思いの言葉を口にしていった。保育士がどんなふうの色水を作るのか実際に見せてみると「作ってみたい！」と意欲が見られた。「こう振ったらいいかも！」と案をだしながら振る姿も見られた。絵本の読み聞かせでは「おもしろい！」「ばたんとする」と絵本の世界に入りこんで楽しんで見ていた。時間が経ってペットボトルの水を見てみると「きれいー」「変わってる！」と色水になっていることにびっくりしていた。もう一つの色水作りでは、好きな色を2色選ぶと一回目と同じやり方で色水を作っていた。1人の子が「2つ持って振れるよ」と言うと真似して2つペットボトルを持ちながら振っていた。



【戸外活動中:色水遊び】
自分で作った色水ボトルを大事に持っていた。透明なカップに移し替えてジュースに見立てたり、新しく追加でペットボトルに水を入れて色水を作る姿もあった。「色水(カラーセロハン)持って帰りたい！」と色水作りを惜しむ声もあった。



【戸外活動:氷遊び】
保育者から氷を見せてもらおうと「おー！」と目を輝かせていた。「触ってみたい」と先走って手を伸ばし、氷に触れている児もいた。色が付いた玩具ではなく透明なカップやペットボトルを率先して手にとって遊んでいた。氷が溶けてカラーセロハン紙が取れると、タライに浮かばせてみたり、目に近付け色が透けて見えるか確認してみる児がいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

【事前準備期間】カラーセロハンは赤色のみしか色水にならなかった。追加で購入もし、水温やボトルを替えてみたが青黄色緑色は変化が見られなかった。前回の実験でも感じたが、事前に実験準備をしておくことで他職員とも共有しあうことができ良かった。
【色水遊び振り返り】
子どもたちと一緒に色水に変化していく過程を見ながら実験が出来たのは楽しかった。振ってすぐに色が変わるわけではなく、振る時間がかかるので子どもたちも振り飽きてしまわないか心配になる場面もあったが、飽きることなく色水作りを楽しんでいて良かった。戸外ではカラフルな玩具ではなく、まずは透明なカップ等の玩具で色水の遊びができるように促していった。
【色水遊び振り返り】
導入で、先週行った色水実験の写真(ドキュメンテーション)を見ながら何をいれたのか、どうやって作ったのかひとつひとつ振り返りをしていった。保育士が促さなくても、透明な玩具を率先して選んで遊び始めていた。やはり、赤色以外のカラーセロハン紙は変色が見られず、全員が同じ色水であった。子どもたちが自分で作った色水氷を大事に溶かしながら遊ぶ姿が見られ、溶けてくるとジュースに見立てて遊んだり、大小の氷を重ねてプリンに見立てている児もいた。

1. 活動テーマ

<テーマ>

光の三原色	園名	てくてく保育園		
	クラス	にじ組(2歳児)	人数	3名

<テーマ設定理由>

・水をテーマに取り組む中でセロファンの色が水を介して反射する様子や水の中に入れた場合の様子に興味広がっていく。その中で水と光をテーマに取り組む。・散歩で見つけた信号機の色に関心が広がっていく。・「光」について興味を持ってもらうきっかけで、まずは基本となる三原色を子どもたちと知っていただけたらいいなと思い、計画する中で学内勤務の保護者に参加して頂くことで、子どもたちもいつもとは違った実験を楽しめると考えた。

2. 活動スケジュール

実施期間：2025年6月～2026年3月

【記録日の活動スケジュール】

事前準備：9/30～10/2

10/6 朝おやつ後の9:30～10:15

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備したもの…カラーセロハン紙(赤青緑)、懐中電灯3本、プラスチックの白いかご
環境設定…にじぐみで行う。机上には何も置かない状態にした。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

特別講師として保護者の紹介。

- ①懐中電灯の光を1つずつみていく。
 - ②二色の懐中電灯で色を近付き合わせて変化をみる。
 - ③三色の光を重ねてみる。
 - ④子どもたちも一本ずつ懐中電灯を持ち、光の見え方を感じていく。
(3色の懐中電灯を順番に回して全員が全色使えるようにしていく)
- 講師の保護者にご挨拶。
- ⑤振り返りをした後、懐中電灯を持ちクラス内を自由に光の探索。

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

初めて保護者の方が先生となってきたことに驚きながらも、意欲的に参加していた。
講師（保護者）が色の説明をしている際は、光の色が「きれい」「わあ！」と思いきい言葉を口にしていた。

説明の途中で既に「〇〇も持ってみよう」「やってみよう」とやりたいが先走っている様子もあった。

机上だけでなく、天井やホワイトボードなど光の当てを変えながら楽しんでいた。

白いプラスチックのかごをミニスクリーンに見立てたり、

「緑こっちにきて」

「青と赤が追いかけてこしてる」と色を人物（個体）と捉えているように感じる表現もしていた。

「きいろはなにと何を混ぜたらいいんだっけ？」と保育者が聞くと「赤と緑！」と答えて2色を子どもたち同士で合わせてみる場面もあった。

講師の保護者が帰られた後も「まだ光したい」という声があったので、時間を決めてクラス内を自由に光探索した。「本棚にも」「ブロックにもあててみよう」と言って光を照らしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・普段とは違う先生が実験を進めていくことで、子どもたちも楽しんで参加できていたので良かった。懐中電灯を使う際に、「目やほかの人に向かって照らさないようにすること」を伝えられていなかったのが、保護者の方と事前に約束事を確認しておくべきだったと感じた。園内の電気たちは、既に三原色が混ぜられてできた色（光）であることを知ることができ、保育者にとっても学びのある実験であった。振り返りの時間では、「光の三原色」は何色あって何色のことなのかみんなを確認していき、次回の実験への期待を持った言葉をかけていった。

1. 活動テーマ

<テーマ>

カラーセロハン紙を持って太陽光を見てみよう	園名	てくてく保育園		
	クラス	にじ組(2歳児)	人数	3名

<テーマ設定理由>

前回の光の三原色を活かした実験にした。
室内と太陽光では光の見え方の違いを発見していきたい。

2. 活動スケジュール

年間実施期間：2025年6月～2026年3月
記録実施期間：2025年11月
朝おやつ後9:35～10:15頃
室内で光の三原色を振り返ってから戸外にて実験。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

カラーセロハン紙(赤、青、緑)、厚紙用紙、光の三原色表、絵本「いろいろバス」「カラフルモンスター～どんなきもち?～」

4. 探究活動の実践

<活動内容>

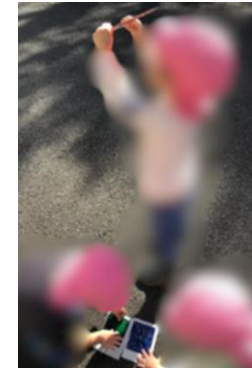
- ①導入絵本「いろいろバス」読み聞かせ
- ②机上でカラーセロハン紙を見てみる
戸外準備ができたなら
絵本「カラフルモンスター～どんなきもち?～」読み聞かせ
- ③戸外にて太陽光でカラーセロハン紙を見てみる(地面、階段、スロープ)
- ④まとめ、振り返ってみよう(三色の影が合わさると何色にみえたか)

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

机上でカラーセロハン紙を見せると
「はやくやりたい!」
「〇〇は青がいい」
「緑がいい!」と保育者が説明している途中で思い思いの言葉を言っていた。

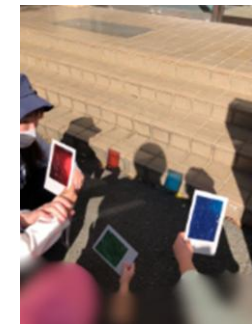


戸外に出ると、保育者がどんな風に光(色の影)をみていくといいのか見本を見せていくと
「すごーい」「みえる～」と驚いていた。
約束として太陽を直接見ないように伝えたと
「お月さまはいい?」と聞いていた。



自分たちの影でうまく見えなかったり、地面に近づけてみたり、セロハン紙越しにみたり…。太陽光からの反射で見えることは分かっているが見え方が難しいようで、時間が経つにつれて飽きてきてしまう児がいた。

夢中になって取り組んでいる児は保育者と三色の影を重ねて
「全部合わせると白じゃなくて黒色だね」と発見ができていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

導入として「いろ」にまつわる絵本を読みあっていた。実験にちなんでいる絵本を取り入れると子どもたちも実験への期待がふくらんでいるように感じた。太陽光で照らしてみても、太陽の位置と自分たちの影が重なってしまい、見てほしい方向で色の影を見れず「どこだ?」とあたりをキョロキョロしてしまっていた。白色の地面だと色がよく見えたので1人ずつ呼び、個別で援助しながら色の影を見ていった。光の三原色では、三色が合わさると白色になることを知ったが、今回の実験では色の影が合わさると黒色に見えたことを子どもたちと一緒に知り、振り返っていくことができたので良かった。

1. 活動テーマ

<テーマ>

太陽光の力で動く車であそぼう	園名	てくてく保育園		
	クラス	にじぐみ (2歳児)	人数	3名

<テーマ設定理由>

光にも種類があることを知り、太陽の光はどんな力を持っているのか発見していく。

2. 活動スケジュール

年間実施期間：2025年6月～2026年3月
記録実施期間：2025年12月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

太陽光で動くミニ車キット(組み立てたもの)、サイドテーブル、絵本「こうじのくるま」「しぜんキンダーブックでんき」

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①導入として「こうじのくるま」を読み合う。
- ②実際に実験してみよう！（ウッドデッキにて）
- ④まとめ「しぜんキンダーブックでんき」のページを振り返り

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

導入で、実験で使用する車を見せると、「なんだ？」「おもちゃではないね？」と初めてみる形の車に興味津々だった。

特にソーラーパネルが気になるようで、何度も触れていた。

机上で走る場面を見ると「おー！動いた！」
「落ちちゃうから取るね」と車の行方をしっかりと追っていた。

角度と高さが合わないと車が動かないので、保育者が試行錯誤する位置を探していると、一緒に車を掴み
「どうやったら動かなあ～？」と確かめていた。

太陽光発電がされ、タイヤが勢いよく回っているところを見ると「すごい」と驚きつつ
「どうして白い所(金具)が付いているんだ？」等車の作りを知りたがる姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

(事前準備期間)車の作成自体はそこまで複雑ではなかった。太陽光の位置、場所によってタイヤが回るか決まるので試行錯誤して調整することが難しかった。地面ではなく、机の方が走れるということを知ることができたので良かった。
(実験当日)子どもの欠席と天候により、実験日を変更して取り組んだ。事前準備期間でも知っていた通り、太陽光がうまく吸収される位置が異なるので試行錯誤しながらも、子どもと一緒に発見を見つけていった。街中でみるソーラーパネルがなぜ斜めに設置されているのか、この実験を通して保育者も学びを得ることができた。実験後は子どもと絵本図鑑を振り返り、「太陽光エネルギー」「ソーラーパネル」の言葉もしっかり覚えていくことができ良かった。

1. 活動テーマ

<テーマ>

ライトテーブルで遊ぼう	園名	てくてく保育園		
	クラス	にじぐみ（2歳児）	人数	1名

<テーマ設定理由>

光や水の興味をひろげるためにライトテーブルを活用する。また、虫や恐竜を好んでいるため光にあてることで細部まで観察できるようにする。

2. 活動スケジュール

年間実施期間：2025年6月～2026年3月
記録実施期間：2026年1月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備したもの：ライトテーブル、水槽、虫の標本、図鑑、カラーセロハン
環境設定：保育室内電気を消灯する。
(ライトテーブルは納品までレンタル品を活用する)

4. 探究活動の実践

<活動内容>

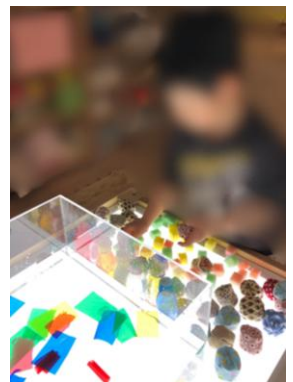
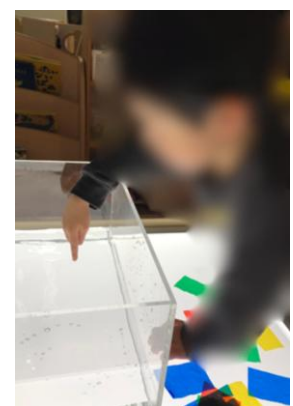
導入で「ライトテーブル」の紹介
①にじ組の玩具で自由遊び(スポンジ、お手玉、色水ボトル、お皿、洗濯バサミ、ペットボトルキャップ、イラストカード)
②虫の標本観察(図鑑を用いながら)

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

電気が光ると「きれいーい！」と目を輝かせていた。
「好きな玩具置いて遊んでいこうね」と声を掛けると1番に持ってきたのはお気に入りのスポンジだった。

スポンジを広げるとジュースやお手玉を全体に置いて、スポンジの色が机裏から見て透けているかいないかに注目していた。
遊んでいる途中で、標本が入っている箱が気に入り始めていたので、
「玩具を全部お片付けしたらあの箱の中のものを置いてみようか」と声を掛ける。
「どの生き物から見たい?」「これ!…次はこれ!」と本児が見たい虫からライトテーブルに置いていき、観察していった。
「なんで虫はここに入っているの?」
「どうやって捕まえたの?」と標本に対しての疑問をその都度質問していた。

足や羽の数、神経の線などじっくり観察していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

当日にライトテーブルのコードが通常のプラグと違うことに気付いた。幸い、ピアノのコードと合致したので使用できたが、届いた日に確認しておくべきだった。
活動自体は、本児も楽しみにしており、普段遊んでいる玩具の見方が変わって面白かった。また、なかなか見ることのできない標本を手に取りながら観察していくことができ、昆虫の体のつくりを一緒に知っていくことができた。

1. 活動テーマ

<テーマ>

影絵芝居「にじいろのさかな」	園名	てくてく保育園		
	クラス	にじぐみ（2歳児）	人数	1名

<テーマ設定理由>

- ・「水」「光」のまとめにちなんで、影絵を披露する。
- ・影絵遊びの楽しさを実感する。

2. 活動スケジュール

年間実施期間：2025年6月～2026年3月
記録実施期間：2025年11月～2026年1月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

[準備物]厚紙、カラーセロハン紙(4色)、割り箸、ストロー、ダンボール、ハトロン紙、懐中電灯(3本)、額縁となるプラスチックの枠組み、絵本「にじいろのさかな」コピーしたもの、衝立2台

[環境設定]荷物棚2台使用。1台に懐中電灯を置き、光を照らす。もう1台にはスクリーンを立てて固定。スクリーン台の左右には衝立を置く。園児の踏み台も用意した。室内の電気は消灯し、スクリーンに注目がいくように工夫した。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①園長より挨拶
- ②タイトルコール（子ども）
- ③物語
- ④エンディングコール（子ども・保育者）
- ⑤園長より総評、まとめの挨拶

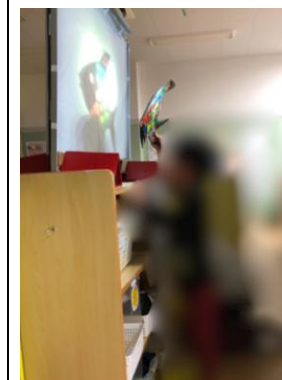
<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

保護者が次々と来園すると「うわあ〜…来たね…！」と緊張(ドキドキ)していた様子だった。

自分が演じる魚とヒトデの出番もしっかりと覚えており、それぞれの出し方もスクリーンに近づけて出すことを本児なりに意識して取り組んでいた。

途中、保育者が「魚がない！」と焦ってしまっても、落ち着いており「あれ？あれ？」と静かに一緒に魚を探してくれていた。

発表後の作品紹介では園長先生から「どうやってお魚作ったの？」と聞かれると「セロハン(紙)貼ったんだよ」と堂々と答えていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

(準備期間)2か月ほど前から担当職員と園長で題材を決め、準備に取り掛かっていった。決めた期限の内に進捗具合を確認、打ち合わせを重ねていき、子どもの動き含めたりハーサルも数回行っていった。子どもが演じる魚は子どもが実際に製作することで、子どもの作品としても影絵に参加することができたので良かったと感じている。

(当日)演じている途中で登場予定の魚が手元になく、少し間があいてしまった。想定していなかった事態が起きたが、遅れて登場した際にアドリブを入れた事で、流れを止めずに物語を進めることが出来た。万が一の不備に備えて、予備のカラーセロハン紙やセロハンテープ、ストローなどを置いておくべきだと思った。発表自体は子どもも緊張感を持ちつつ、楽しい雰囲気の中で自分の役を演じられていたので1年間のまとめとして披露する場として良かった。